

外房法友会

法政大学校友会
外房法友会 会報
第 17 号

発行所 法政大学校友会 外房法友会
発行人 古山 弘
〒299-4415 長生郡睦沢町小滝475番地1
TEL 0475-44-1869

令和元年度「外房法友会」総会報告

矢澤邦公

令和元年度外房法友会の総会を、令和元年7月6日（土）長生郡一宮町の松濤軒にて開催しました。

当日のご来賓として、法政大学校友会組織部会：山崎文彦様、千葉中央支部長：岡本眞司様をはじめ各支部代表者の方々のご臨席をいただき、また、会員（顧問）として加入していただいている、いすみ市長の大田洋氏、千葉県議会議長の阿井伸也氏をはじめ多くの会員の出席のもと総会が開催されました。



千葉県議会議長に就任した阿井伸也氏

なお、本年6月の千葉県校友会の総会において、外房法友会の古山弘会長が千葉県校友会の会長に選任されております。

総会の第一部では、照川副会長が進行役として平成30年度の活動報告、会計報告、監査報告及び令和元年度の活動計画について慎重に審議され、原案通り可決され無事終了しました。

第一部終了後に全員での写真撮影を行い、第二部では、今井副会長が進行役として、昨年につき法政大学落語研究会の3名、富士見亭雑煮の「看板のピン」、田町家亀介の「初天神」、富士見亭りこーの「へっつい幽霊」の演目を、中には1年生で経験浅く緊張の面持ちで一生懸命に、また、緊張

のあまりお腹を痛めながら落語を披露していただきました。

第三部の懇親会では、引き続き今井副会長の名司会により、新会員の紹介など和やかな雰囲気の中、久しぶりの仲間との再会に話に花が咲き、年齢なども感じさせないほど、それぞれの学生時代の話が尽きず、また、他支部の様子なども伺え、時間が過ぎるのも忘れるほどでした。

最後は、恒例の出席者全員が一つの輪になり、母校法政大学を思いながら、校歌「若きわれらが命のかぎり・・・」と大合唱し閉会となりました。

外房法友会では、平成29年度からは入会を示した方を会員とし、年会費をいただいて運営しております。従前は長生郡市・夷隅郡市を範囲としておりましたが、会則を変更し東金、大網白里、鴨川地区の方にも呼びかけたところ数名の方に入会いただき、会員数は現在、47名となっております。ぜひ、知り合いにお誘いをいただき入会のうえ外房法友会の仲間として交流、絆を深めていきたいと思います。

(昭和52年経営学部卒)

第27回法政大学全国卒業生の集い 徳島大会 成嶋 まさる

仕事、帰省で行く地方は大体固定化しており、旅行の行き先も、日程や予算などによってなんとなく決まってしまう、60年以上生きてきても、行ったことの県はいくつもあります。例えば、四国に行ってみたくも思っている、千葉からでは、飛行機になってしまい、どうせ飛行機を使用するなら北海道や、沖縄に行こうと言うことで、なかなか四国に行く機会がない人も多いのではないのでしょうか？

行く機会がなければ、行く用事を無理やりにでも作ってしまうのはどうでしょうか？ 例えば法政大学全国卒業生の集いは、全国持ち回りで毎年、開催されます。2017年は宮崎県、2018年は千葉県、2019年は徳島県で開催されました。毎年参加すれば、あなたも47年後には全国制覇できますよ？

私は宮崎大会から参加しており、今回、徳島大会にも参加してきました。

11月16日（土）に大会式典・懇親会が開催されましたが、ちょっと時間があつたため、午前中に徳島駅から特急「うずしお」に乗り、讃岐うどんを食べに、高松まで行きました。しかし、特急「うずしお」と言っても、渦潮は見られず、指定席は、自由席車両の後ろ4列の座席、そして徳島駅ではスイカ（イコカも）が使えません。なお高松駅ではスイカが使えます。高松駅からスイカで乗車したら、徳島駅でどうやって改札を出るのか気になります。やはりところ変わればで、旅行に行くと、いろんな経験ができます。

讃岐うどんを早く食べないと大会式典に遅れてしまうと思いつつも、食欲に負けてしまい、讃岐うどんを2軒もはしごしてしまいました。そのせいか、田中優子総長の講演（演題 阿波文化と江戸文化）を聞き逃してしまいました。総長、申し訳ございません。なお、古山会長ご夫妻も大会に参加されており、講演会は、興味深く聞かれたそうです。

私が遅れて席につくと、飯泉嘉門徳島県知事が祝辞を述べられていました。「話のうまい人だな、さすが法政」と思って、あとで調べたら、東大出身でした。この方、全国知事会会長で、コロナ関係で、最近よくテレビでお見かけします。

続いてアトラクションとして蜂須賀連による阿波踊りです。阿波踊りは茂原にもありますが、生で見ると、やはり本場は違います。特に女踊りの後ろ姿が ピシッとそろそろ姿はかっこいい！ 歴

史や伝統というのは、こういう細かなところに出るのでしょうか。（法政大学もそうかしら）

最後は応援団、チアリーダーによる校歌斉唱でお開きです。お土産に徳島の銘菓マンマローザ（社長が法政OBとか）をいただきました。2020年10月には栃木で大会開催予定です。コロナウイルスの関係で無事開催できるか、原稿執筆時点では不明ですが、開催できれば、皆さんもぜひ参加をご検討してみてくださいはいかがでしょうか？

（昭和57年 法学部卒）



チアリーダーによるデモンストレーション

2019年オール法政新年を祝う会

古山 弘

3年ぶりに「オール法政新年を祝う会」に参加しました。昨年3月まで地区の区長（自治会長）を務めており、毎年1月の最終日曜日に、道路脇の芝焼をするのが地区の年中行事でしたので、区長としてこれを休んで新年会に行くことは出来ませんでした。今年は晴れて無役となりましたので、芝焼きは息子に頼んで東京まで行ってまいりました。

今年も会場は「グランドニッコー東京 台場」で、95テーブル、千人を超える参加者で賑わっていました。私のテーブルでは外房の浅葉文雄さん、今井智子さん、そして昨年の全国大会を主催した徳島県校友会の石原会長さんも一緒でした。

講演会では全日本野球協会会長の山中正竹さんが、「オリンピックの魅力」という題で興味深い話を聞かせてくれました。山中さんといえば、六大学野球の最多勝利記録48回という記録保持者であります。2番目はあの江川卓さんの47勝です。大先輩を追い抜いてはいけないと、1つ手前で止めたところなど江川さんらしいですね。ちなみに、先日亡くなられた関根潤三さんも、41勝で第6位の記録です。

少し話が逸れますが、平成18年、当時の「法政大学校友会茂原支部」の総会に関根潤三さんがお出で下さいました。茂原支部の顧問であった、元応援団の末石恒夫大先輩と野球部の関根さんが親友で、そのご縁でお出でいただく事が出来ました。関根さんは1時間、立ちっぱなしで講演をされました。さすが高齢になっても元スポーツマンだと感心した事が思い出されました。関根さんのお話で今でも印象に残っているものがあります。ご自身の監督としての経験を元に話されました。

<監督の一番の仕事は、それぞれの選手が金であるか、銀であるか、銅であるか見極める事である。長島のような選手は天性の素質を持った金である。また王のような選手は銀であるが磨けば金にもなる素質を持っている。そして銅はどんなに磨いても金にはならない。そういう選手には早く別の道を歩けるようにしてやる。>

ちょっと乱暴な気もするのですが、社会の現実はそのようなのかも知れないと思いました。

話を新年会に戻します。佐々木校友会長に続いて来賓の方々の挨拶がありました。菅官房長官は緊急事態の中でしたのでビデオメッセージでした。

12月の知事選で北海道知事となった鈴木直道さんの乾杯の音頭で懇親会に入りました。右の写真は知事の秘書さんに撮影していただいたものです。鈴木さんと前埼玉県知事の上田さんは、私の記憶の限りでは毎年参加していたと思います。以前の鈴木さんはゆっくりと会を楽しんでいたように記憶していますが、さすが知事となると、秘書さんが「知事、行きましょう」と中座しようとするところを、私のようなミーハーが取り囲むものですから、秘書さんは大慌てでした。こいつらを黙らせるには適度なサービスもやむを得ないと判断し、スマホのシャッターを押してくれました。



大学を卒業して四十数年、このような会に参加して大学時代を思い出すのも大変楽しいものです。外房法友会の皆さんも参加されてはいかがでしょうか。決して敷居の高い会ではありません。

社会的に地位の高い人も、自分も、どうせ皆、法政ですから。

(昭和49年 工学部卒)

芭蕉論(十)

渡辺光夫

「芭蕉俳句集」 岩波文庫。

中村俊足校注。 文庫版、七八二頁。一九七〇年発行。芭蕉の発句を文献によって年代順に配列した。

芭蕉の作を明らかに文献上認められた発句九八二句。存疑の部、芭蕉の発句として伝来しながら、なお決定しがたいもの。五五〇句。偽書簡中の句、二六句。誤伝の部、従来芭蕉作と伝えられてきたもので、他の作者の作であることが文献上確かめられたもののみ。二〇八句。

以下、文献上彼の句で有名なものがどうあつかわれているかを取り上げる。

古池や蛙飛こむ水の音

春の日

古池や蛙飛んだる水の音

庵桜

山吹や蛙飛込水の音

暁山集

閑かさや岩にしみ入る蟬の声

おくのほそ道

山寺や石にしみつく蟬の声

曾良書留

さびしさや岩にしみ込蟬のこゑ

初蟬

淋しさの岩にしみ込せみの声

こがらし

大津に出る道、山路をこえて

山路来て何やらゆかしすみれ草 甲子吟行

何とはなしになにやら床し堇草 皴筍物語

何となく何やら床し堇草 三冊子

しら露もこぼさぬ萩のうねり哉 真蹟自画賛

白露をこぼさぬ萩のうねりかな こがらし

白露もこぼれぬ萩のうねり哉 栞集

所思

此道や行く人なしに秋の暮 其便

この道を行人なしに秋の暮 芭蕉書簡

人声や此道かへよ秋のくれ 笈日記

此道を行人なしや秋のくれ 淡路島

病中吟

旅に病で夢は枯野をかけ廻る 笈日記

旅にやんで夢は枯野をかけまはる 芭蕉翁行状記

旅にやみて夢は枯野をかけめぐる 和漢文操

「藻の花俳句会」会報、「藻の花」へ四〇回連載中のその一部を転載したものである。(昭和三十三年経済学部卒)

大学1年から読み続けている『PHP』

海老根 秀昭

『PHP』という雑誌をご存じの方も多いと思います。

松下幸之助が、昭和21年にPHP研究所を設立し、翌22年4月に創刊されました。「物心両面の調和ある豊かさによって平和と幸福をもたらそう」という理念で毎月発行されています。

この雑誌との出会いは、中学生の頃、母が家で読んでいるのを目にしていたことがきっかけでした。今は、年間購読の予約をして、母の元にも毎月届いています。

昭和53年、法政大学工学部に入学してから当時1冊120円のPHPを購入し始めて、今は、1冊220円となりましたが、それでも手頃な価格であり、しかも内容は充実しています。また、B6判と小さくて持ちやすく、20代にサイクリングで日本縦断を目指した際にも毎回、持参していました。昭和53年6月号(361号)がスタートとなり、令和2年4月号(863号)まで増刊号を含めて本棚に約570冊並んでいます。

私は、PHPと共に歩んできたと言っても言い過ぎではありません。著名人の経験談や物事の見方や考え方、また、一般の人が長年かけて積み上げてきた実績や思いなどが、読みやすく私の心にスッと入ってきます。また、子どもの笑顔、動物や大自然の写真などが掲載されており、大らかに豊かな気持ちにさせてくれます。まさに、私の生き方の指針にもなってきた大切な読み物です。

以前、PHPの内容を整理したいと思い、主な項目の毎月のタイトル部分を入力してきました。それは、「特集」「松下幸之助」「こころにひびくことば」「裏表紙」です。気になる言葉や人名を検索する際に便利ですが、実際には、ほんのたまにしか検索することはありません。また、この4つの項目の内容について、読み直しをしてきました。最近、A5判のノートに表紙裏の詩と裏表紙の文章をすべて書き写し終えました。大学の4年間と、教員になってから定年退職するまでの37年間を含めて今まで読んできた内容が、わずか1冊のファイルに綴じられており、その時々々の出来事が、PHPと共によみがえってきます。

最初に購入した昭和53年6月号の裏表紙の画像と文章の一部を紹介させていただきます。もうすぐ、令和2年5月号「特集：心が晴れる言葉、笑顔になれる言葉」が、届くことでしょう。

コツコツ

コツコツやろう。他にすぐれた頭脳もない、才能もない、体力もない、財産もない。それでもいいではないか。

(途中省略)

一日一歩でもいい、前へ進もう。そして、その一日一日を積み重ねていこう。

(途中省略)

チリも積もればというけれど、ふと振り返って、コツコツ積み重ねてきたその大きさに自分で驚く時がきっとやってくる。だからコツコツやろう、そんな日を心に描きながら。

(昭和57年工学部卒)



『PHP』昭和53年6月号の裏表紙

睦沢町の歴史と文化（1）

川島区川瀬橋（瑞沢川が一宮川に合流地点）から、上市場区までの間を、時速4キロの速さで歩いて町紹介をします。＊サイクルのお好きな方は、「長生茂原自転車道路」を利用したコースもお勧めです。

スタート地点の川瀬橋の橋柱にまず注目です。「かわせばし」の名前と一緒に町の花木、さつきと梅が、すっきりと美しく線刻されています。川沿いに植えられた河津桜は、2月下旬の開花期にぜひ訪れたい場所です。また、6月には、一面に「麦秋」を楽しめ、初夏の風物詩となっています。眼前の神社は、八幡神社で、「疣（イボ）八幡」と呼ばれています。社前のシイの根元の砂は、「疣につけるときれいに取れる」との言い伝えがあります。源平時代に、平家方の武将悪七兵衛景清がこの砂で腫れ物を治したと伝えられています。私の愚息も、幼いころ疣ができ、この砂で試したところ完治した体験を持ちます。「信じる者は救われる」のです。治るとお礼に、マメや小旗を奉納すると聞き、我が家は、お礼に大豆を供えました。神社から、南に望める聖観世音菩薩立像（石像）を目指します。門前に小坊主の昼寝する四足門（山門）のある常德寺（日蓮宗）に着きます。この寺には扁額「川島八景」があります（川島地区の地名の八つを選んで川島八景を詩にしたもの）。この八景の場所を探す楽しみもあります。さらに、県道茂原夷隅線に突き当たると、上市場区に入ります。そこには区民が開店を待望したセブンイレブンがあります。バス停の名は「三角前（みかどやまえ）」です。向かいの三叉路の土手に「馬頭観世音」と書いた大正元年銘の道標が立っています。「左一ノ宮道 右大多喜道」と刻まれ、裏面には信仰心篤い方々の名前が読み取れます。「右大多喜道」に進みます。まもなく、右手には、石垣とともに鳥居が見えてきます。ここは上市場区の八坂神社ですが、その手前の横道に逸れてみます。下り坂になり、真言宗豊山派の成就院に着きます。内陣の欄間彫刻は、二代伊八郎信常の作です。また、寺室の木造弘法大師像は、名人圓鉄（江戸生まれ）の作であることが最近墨書銘からわかり、町の文化財に指定され注目を浴びています（拝観は、ご住職と要相談）。来た道に戻り、左方向に休憩所の「ぶらっと（観光交流センター）」の看板が目に入りますが、八坂神社に立ち寄ります（嘉永2年、1849年に現在の社殿造営）。毎年7月7日に近い土・日曜日は、「天王様（てんのうさま）」の祭礼で賑わいます。露天商が並び、芸能大会も催され、御輿（子供、大人）渡御とともに上市場の子ども囃子も披露されます。子ども囃子は町の郷土芸能の一つです。この社の向拝彫刻は「波の伊八」と呼ばれた3代目伊八郎信秘の「波に龍」で、町指定文化財です。裏面には銘文が刻まれています。社殿を囲む彫り物も、一見です。次に、上市場観光交流センター「ぶらっと」に立ち寄り、トイレ休憩。喫茶ができ、地元農家の産直品も購入できます。「ぶらっと」前には、「八坂神社前」のバス停があり、茂原駅からむつざわ道の駅間を土日も路線バスが運行しています。「ぶらっと」を拠点にした観光もできます。ところで、「上市場」という地名の由来ですが、釜市場（かまいちば）転じてかみいちば（上市場・「神市場」の記録も残る）と呼ばれるようになったようです。半農半商の土地で、鋳物業を営む家もあり、今も残る屋号から当時も偲べそう

ですが、釜などを鋳造販売して、道沿いは賑やかな町並みが続いたと推測されます。上市場も40年以上前までは、40軒程の商店が軒を連ねていました。「ぶらっと」隣の「田中肉店」は、現在3代目です。「豚松コロッケ」と「豚松メンチ」は、80年の歴史を味わえる近郷近在にない美味しさです。休憩後は、かつて醤油業を営んだ南台の長屋門（伝：江戸末期に移築）を見ながら、さらに大多喜道を進みます。（つづく）

歩いて・寄って・見て・食べて・遊んで・おしゃべりして (睦沢町川島・上市場周辺案内図)



土井会長を偲んで

成田法友会の土井一彦会長が2月にご逝去されました。まだ71歳でした。人生百年時代といわれる今、あまりにも早い旅立ちでした。

土井会長に初めてお会いしたのは平成25年の5月でした。前年11月に設立した「千葉県校友会」の最初の定時総会でした。その時は確か成田法友会副会長だったと思います。その後会長となりました。第一印象は、そのお顔つきからも大変温和で包容力のある方だと感じました。それから今までお付き合いをさせていただき、外房の総会にも何度も来ていただきました。

土井会長は私より3つ先輩の経済学部の卒業です。花沢先輩と同じクラスだそうで、花沢先輩は土井会長を覚えていたそうですが、土井会長は覚えていないと言っていました。周りに気配りのきく花沢先輩と割合どっしりと落ち着いていた土井会長の性格の違いでしょうか。

土井会長の経営していらした「若松」へ、一度ウナギを食べに行きたいとずっと思っていたのですが、かなわぬ内に逝かれてしまいました。残念でなりませんが、今度、成田へ行ったらお尋ねしてみたいと思います。

成田法友会の総会に何度か出席させていただきましたが、伝統と文化のある町に相応しい校友会だと感じました。土井会長のもと、会員の皆さんも結束され活発な活動をされています。亡き土井会長のご冥福をお心より祈り申し上げますとともに、成田法友会の益々のご隆盛を願っています。

法政大学校友会 千葉県校友会会長古山弘

法政大学校友会全国卒業生の集い 栃木大会

早くウィルス感染が終息し、大会が開催されるように願っています。その時にはぜひご参加を。

